



特定小電力無線電話装置

MBL88

取扱説明書

このたびは、400MHz 帯特定小電力無線電話装置 MBL88 をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。

MBL88 は当社の厳重な品質管理および検査のもとに生産、出荷されておりますが、万一ご不審な点がありましたら、なるべくお早めにお買い上げいただいた販売店あるいは(株)スタンダードの営業所、サービスセンターへお申し付けください。

ご使用のまえに

「安全上のご注意」では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△記号は注意・危険を促す内容があることを告げるものです。

左図の場合は、感電注意が描かれています。



⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。

左図の場合は、分解禁止が描かれています。



●記号は使用者の行為を指示することを告げるものです。

左図の場合は、一般的な指示が描かれています。

安全上のご注意

- ご使用前に必ずこの「安全上のご注意」と「取扱説明書」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- お読みになったあとは必ず保存してください。

警告

- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切ってください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。
- 万一、機器の内部に水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切って販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。
- 万一異物がこの機器の内部に入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切って販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。
- 万一、この機器を落としたり、破損した場合は、まず機器本体の電源スイッチを切って販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。



- この機器を水につけたり、水道やシャワーなどの水流を直接かけることはしないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- この機器の上や近くに水などの入った容器または小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電・故障の原因となります。



- この機器を分解・改造しないでください。火災・感電・故障の原因となります。



- 本機の分解およびアンテナの付け替え等は、電波法で禁止されています。絶対に行わないでください。改造した機器を使用した場合は、電波法により罰せられますので、ご注意ください。
- 本機は、電波法施行規則第6条「特定小電力無線局」に該当する400MHz帯トランシーバーで特定無線設備の技術基準適合証明等に関する規則(証明規則)第2条8号「工事設計の認証(認証)を受けた無線局」です。本機に貼られている証明ラベルは絶対にはがさないでください。



注意

- 航空機内や病院などの使用を禁止された場所では、この機器の電源を切ってください。電子機器や医療機器に影響を及ぼす恐れがあります。
- お手入れの際は安全のため電源を切ってください。また、アルコール・ベンジン・シンナーなどの溶剤を含んだ布で拭かないでください。
- 湿気やほこりの多い場所、高温になる場所に置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。
- 不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けが・故障の原因となることがあります。
- 振動・衝撃の多い場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けが・故障の原因となることがあります。
- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
- 電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- 窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。
- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。



本機は、国内仕様です。国外では使用できませんのでご注意ください。

目次

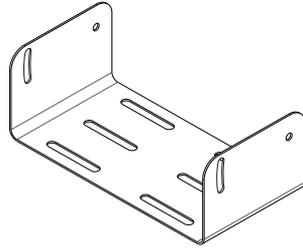
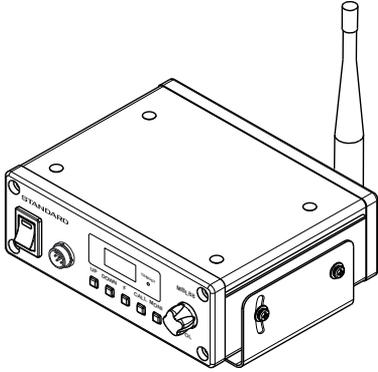
ご使用のまえに	i
安全上のご注意	i
目次	1
本機の特徴	2
梱包品一覧	3
各部の名称	4
本体各部の名称	4
表示部名称	6
ご使用になる前の準備	7
ブラケットの取り付け	7
DC電源との取り付け	8
アンテナの位置変更	8
マイク/スピーカーの取り付け	9
基本操作	10
電源オン・オフ	10
音量の調節	10
チャンネル番号合わせ	11
運用モード I	12
運用モード II	14
かんたん通話の手順	16
個別通話の手順	17
グループ通話の手順	18
便利な通話方法	19
設定モードについて	21
応用操作	24
モニター機能	24
キーロック機能	24
オールリセットについて	25
その他の機能について	25
定 格	26
保証・アフターサービスについて	27
オプション紹介	27

本機の特徴

1. 本機は、電波法施行規則第6条「特定小電力無線局」に該当する400MHz帯複信方式トランシーバーで、特定無線設備の技術基準適合証明等に関する規則（証明規則）第2条8号「工事設計の認証（認証）を受けた無線局」です。免許および申請手続きは一切不要ですので、お買い上げいただいたその日から、ご使用になれます。
2. 本機はRCR-STD20に準拠する特定小電力無線電話装置です。
3. 本機はVLM-850、HX824、HX832Dなどの400MHz帯複信方式トランシーバーや他のMBL88と通信することができます。
4. 電源は12Vバッテリー、24Vバッテリーに対応しています。
5. 周波数は業務チャンネル01～18チャンネル(421.5750～421.7875MHz/440.0250～440.2375MHz)及びレジャーチャンネル1～9チャンネル(421.8125～421.9125MHz/440.2625～440.3625MHz)です。
6. 工場出荷時の設定での通話可能範囲は、周囲の建物等の状況により異なりますが、見通しの良い場所(スキー場や海岸など)では、約1kmです。

梱包品一覧

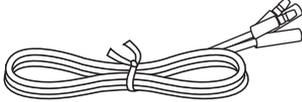
無線機本体..... 1台 ブラケット..... 1個



ブラケット取付用ビス (M4 x 8 mm)..... 4個



電源ケーブル..... 1本



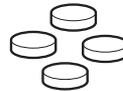
ブラケット固定用ビス..... 4個



取扱説明書..... 1部



ゴム足..... 4個



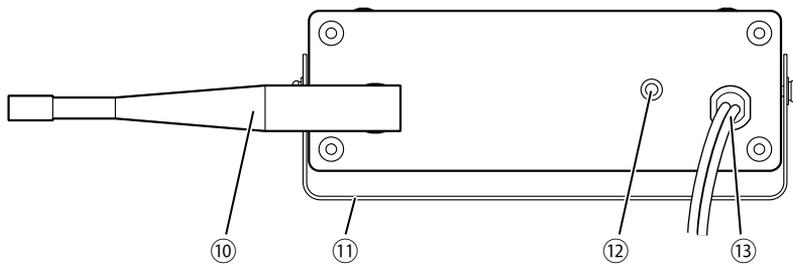
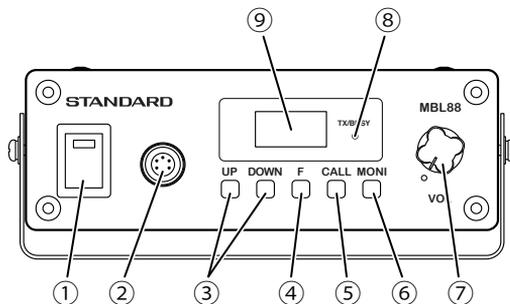
保証書..... 1部



全国営業所一覧..... 1部



各部の名称



本体各部の名称

- ① 電源スイッチ
このスイッチの上側を押すと電源が入ります。
このスイッチの下側を押すと電源が切れます。
- ② マイク接続端子
この端子に別売のマイクを接続します。

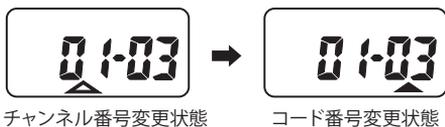
③ UP / DOWN キー

UP キーを押すと、チャンネル番号などが上がります。DOWN キーを押すと、番号が下がります。これらのキーを押し続けると、番号が早く変わります。UP/DOWN キーを押すことで切り換えられるのは、チャンネル番号、コード番号、相手番号などです。

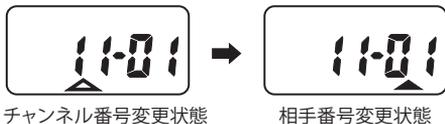
④ F キー

このキーを短く押すことで、UP/DOWN キーで変更する項目を切り替えます。キーを押すごとに項目は、次のように切り変わっていきます。マークが下にある項目が変更可能な項目です。

例) 運用モード I



例) 運用モード II 個別通話



表示部の下には、チャンネル変更時は△、コード番号または相手番号変更時は▲が点灯します。

このキーを長押しすると、キーロックの設定、解除を行います。

キーロック状態にすると、コード番号または相手番号が変更できなくなります。

例：01 チャンネル、キーロック状態



⑤ CALL キー

このキーを押して通話します。

⑥ MONI キー

このキーを押して、スケルチミュートの解除、設定を行います。

電波が弱くて相手からの音声途切れがちな時、このキーを押してスケルチミュートを解除すると途切れが少なくなります。

⑦ 音量ツマミ

時計方向(↻)へ回すと音量が大きくなります。

反時計方向(↻)へ回すと音量が小さくなります。

⑧ TX/BUSY ランプ

このランプは、通話の時赤く点灯、信号を受信した時または MONI キーを押した時は緑に点灯します。通話中に MONI キーを押すと橙に点灯します。

⑨ 表示部

チャンネル番号、コード番号、相手番号、キーロック機能やその他機能の設定状態の表示を行います。

⑩ アンテナ

このアンテナを回して、本機を取り付けやすい位置や、よく受信する位置にします。

⚠ 注意

アンテナの回転範囲は上下 180°です。この範囲を超えて、無理に回そうとするとアンテナを破損する原因となりますのでご注意ください。

⑪ ブラケット

このブラケットを使って本機を取り付けます。

⑫ 外部スピーカー接続端子

この端子に市販のスピーカーを接続すると相手の音声をスピーカーで聞くことができます。

⑬ 電源入力端子

この端子と 12V または 24V のバッテリーを接続します。

本機とバッテリーの接続に関しましてはご購入し上がった販売店または(株)スタンダードの各営業所にお問い合わせください。

表示部名称

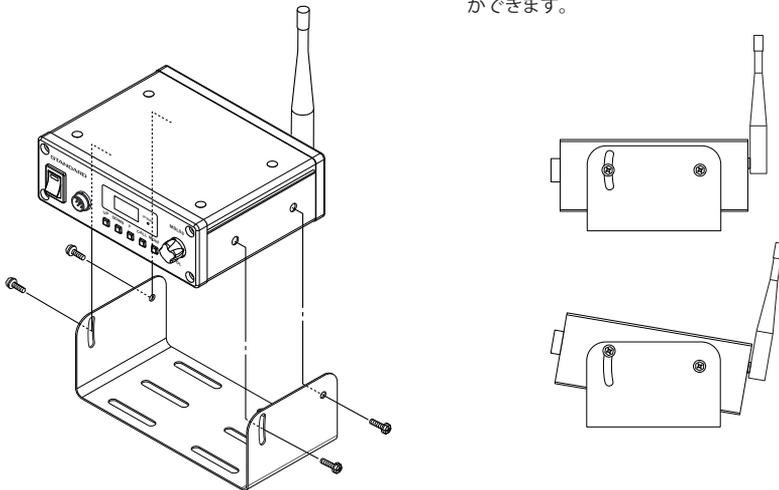


ご使用になる前の準備

ブラケットの取り付け

付属の専用ネジで、下図のように取付けます。

前のネジの位置を変えることで角度を変えることができます。

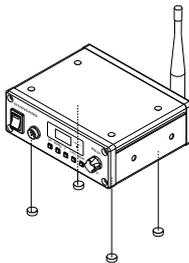


⚠ 注意

ブラケットを取り付けるときは、ネジは必ず付属のものを使用してください。付属以外のネジをお使いになると、本機内部の破損またはブラケットの脱落の原因となることがあります。

アドバイス

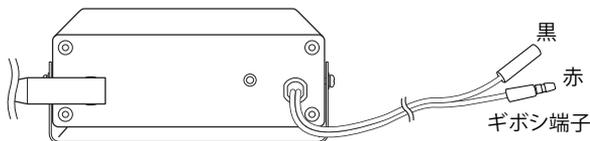
ブラケットを使用しないで机上に置く場合は付属のゴム足を本体底面四隅に貼付けてご使用ください。



DC 電源との取り付け

本機とバッテリーの接続に関しましてはお買い上げになった販売店または(株)スタンダードの各営業所にお問い合わせください。

1. 電源スイッチが切つてあることを確認してください。
2. 12V または 24V のバッテリーにつながる電源ケーブルを本機の電源入力端子と極性を確かめて接続します。(ケーブルの赤が+、黒が-です。)



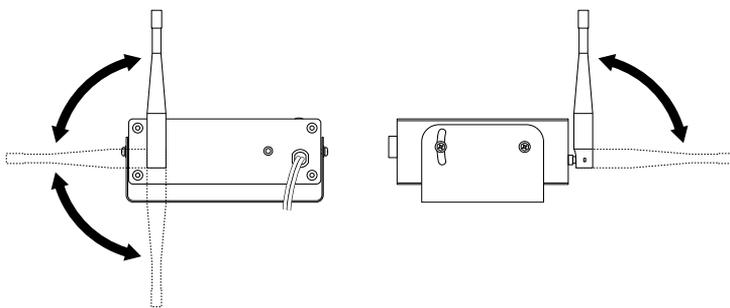
⚠ 警告

本機への配線中はバッテリー本体のマイナス端子から接続されている電源ケーブルをはずしておきます。

本機の電源として接続できるのは 12V または 24V のバッテリーまたは安定化電源のみです。

アンテナの位置変更

アンテナは、下図に示す範囲で位置を動かすことができます。



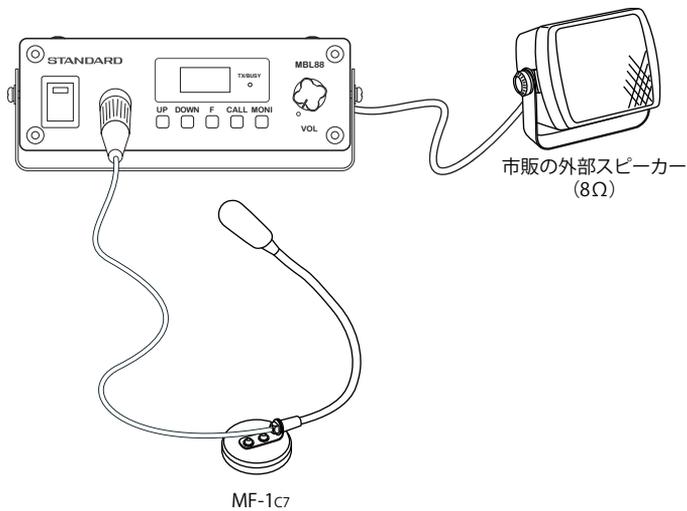
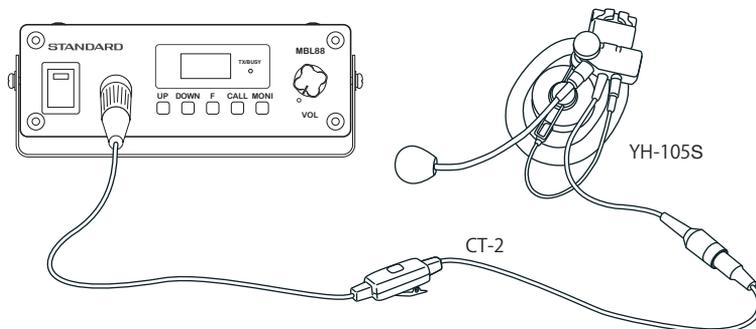
⚠ 注意

アンテナを可動範囲以上に動かすと、アンテナを破損します。

アンテナは電源ケーブルやマイクケーブルなど他のケーブルに近づけないでください。ノイズが発生する原因になります。

マイク／スピーカーの取り付け

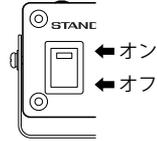
前面のマイク接続端子に別売の中継ケーブル CT-2/ ヘッドセット YH-105S やマグネット基台付きフレキシブルマイクロホン MF-1C7 を接続します。MF-1C7 を使用する場合は後面の外部スピーカー接続端子に市販の外部スピーカーを接続します。



基本操作

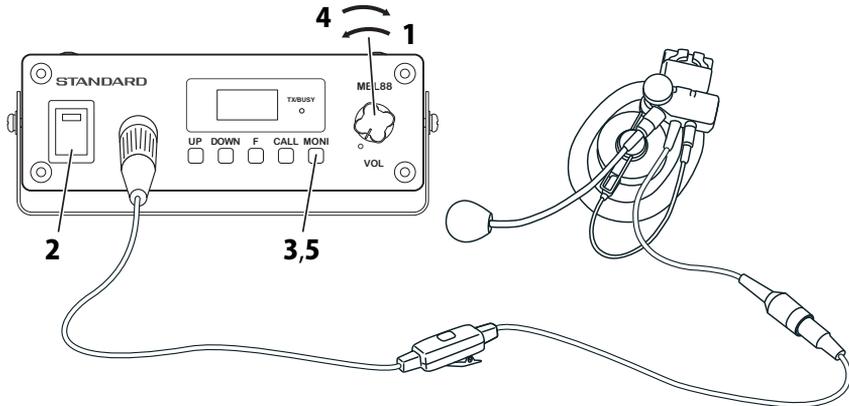
電源オン・オフ

1. 電源スイッチの上側を押すと赤色ランプが点灯し電源が入ります。
電源が入り待受け状態となります。
2. 電源スイッチの下側を押すと赤色ランプが消え電源が切れます。



音量の調節

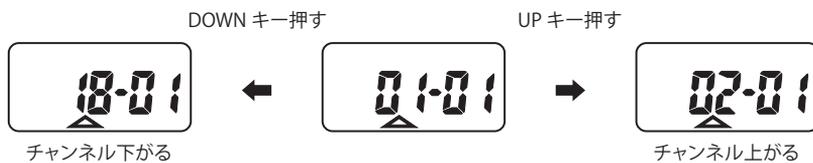
1. 音量ツマミを左に回しきって、音量を最小にします。
2. 電源スイッチを入れます。
3. MONI キーを押します。(TX/BUSY ランプが緑に点灯します。)
4. 音量ツマミを徐々に時計方向に回します。
「ザー」という音が徐々に大きくなっていきます。
5. 音量が適当なところで、音量ツマミを回すのを止めて、MONI キーを再び押します。
「ザー」という音は聞こえなくなり TX/BUSY ランプは消灯します。



チャンネル番号合わせ

1. 通話する相手と UP キー / DOWN キー を使ってチャンネル番号を合わせます。

例 1. 運用モード I



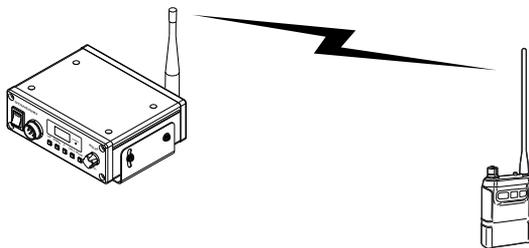
例 2. 運用モード II *かんたん通話*



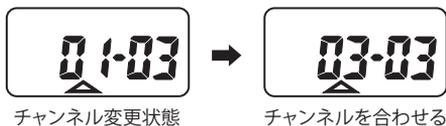
運用モード I

本機の基本となる機能です。

この運用モードでは、VLM-850 とチャンネルとコード番号を合わせることで通話が行えます。

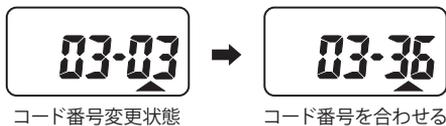


1. 電源を入れ、適当な音量にします。
2. F キーを押してチャンネル変更状態(△が点灯)にし、UP または DOWN キーを押して、通話したい相手にチャンネル番号に合わせます。



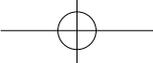
(電源を入れた直後は、F キーを押さなくても、チャンネル変更状態(△が点灯)になっています。)

3. F キーを押してコード番号変更状態(▲が点灯)にし、UP または DOWN キーを押して、通話したい相手のコード番号に合わせます。



コード番号を 00 にすると同じコード番号以外の通話も受信することができます。

4. TX/BUSY ランプが緑に点灯していないことを確かめます。
本機の TX/BUSY ランプが緑色に点灯しているときは、第三者との混信が想定されます。そのときは、緑色のランプが消えるまでしばらく待つか、他のチャンネルに変更する必要があります。

- 
5. CALL キーを押すと、本機の TX/BUSY ランプが赤色に点灯し通話状態になりますので、マイクに向かって話します。
 6. 通話を終了するときは、再度 CALL キーを押します。

アドバイス

- (1) コード番号は、VLM-850 のグループ番号に相当します。

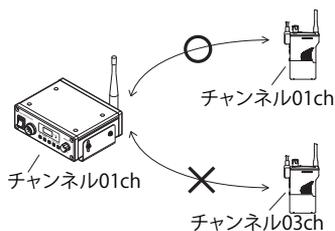
運用モード II

この運用モードでは HX824、HX822 および HX832D と通話が行えます。通話の方法には、かんたん通話、個別通話、グループ通話の 3 種類があります。また、同じチャンネルやグループの人を一斉に呼び出すこともできます。

この運用モード II を使用する場合は、設定モード (P.21) で「2. 運用モード設定」を「運用モード II」に設定します。

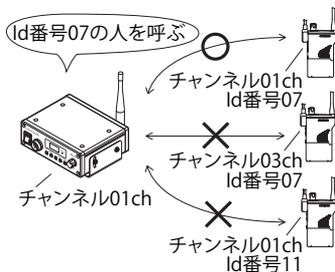
かんたん通話について

運用モード II の初期状態で設定されている通話方法です。お話しする相手にチャンネルを合わせるだけで 1 対 1 のお話しができます。この通話方法をお使いになるときは、16 ページをご覧ください。



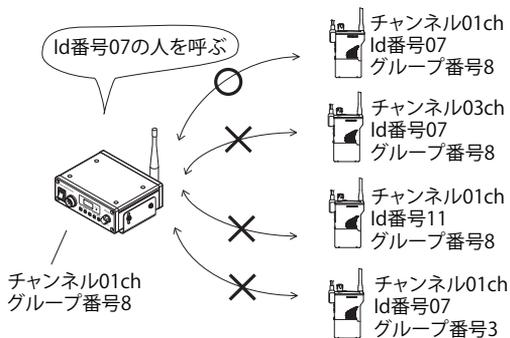
個別通話について

本機 1 台 1 台に Id 番号をつけます。この Id 番号を使って、呼び出す機能です。特定の人を呼び出す時に便利です。また、近くで同じチャンネルを使われると混信を起こすことがあります。このような時にも、Id 番号を使って呼び出すと混信がほとんどありません。この通話方法をお使いになるときは、17 ページをご覧ください。



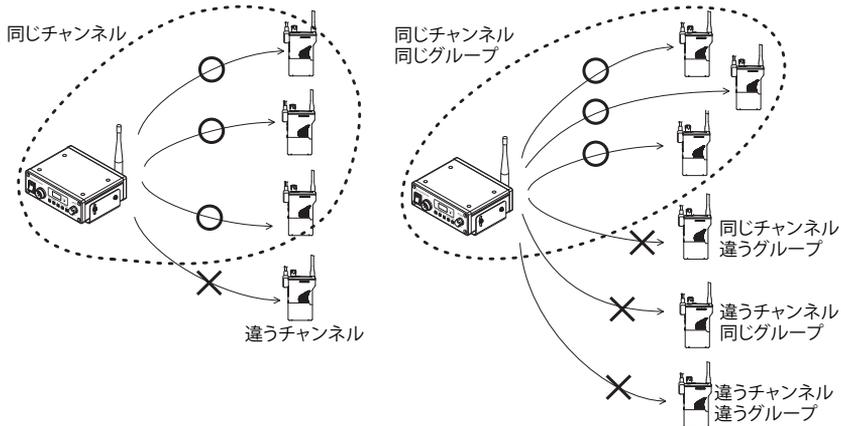
グループ通話について

Id 番号のついた本機にさらにグループ番号をつけて、グループに分けます。グループごとに Id 番号を使って、特定の人を呼び出します。個別通話でも混信するときなどにお使いください。この通話方法をお使いになるときは、18 ページをご覧ください。



一斉呼び出しについて

個別通話では、同じチャンネルの人を一斉に呼び出します。グループ通話では、同じチャンネルとグループの人を一斉に呼び出します。この通話方法をお使いになるときは、19 ページをご覧ください。



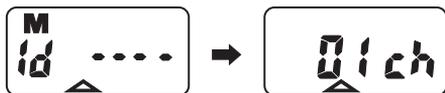
かんたん通話の手順

1. 電源を切ります。「かんたん通話」の設定を行います。

「かんたん通話」の設定

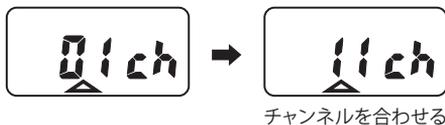
設定モード (P.21) で次のように設定します。

3. 自局 Id 設定 「-」を設定します。
 4. 自局グループ設定 「-」を設定します。
2. 電源を入れると「Id----」が表示されます。その後、チャンネルを決める表示になります。



3. UP/DOWN キーで相手の人と同じチャンネルにします。

UP/DOWN キーを押す



4. CALL キーを押して、相手の人を呼び出します。
本機の TX/BUSY ランプが赤色に点灯したらマイクに向かって話します。
5. 通話を終了する時は再度 CALL キーを押します。

アドバイス

- (1) チャンネル番号は相手の人と一致していないと通話できません。
- (2) ビジネス用チャンネルとレジャー用チャンネルの切換えについてはバンド設定 (P.22) をご覧ください。

個別通話の手順

1. 電源を切ります。「個別通話」の設定を行います。

「個別通話」の設定

設定モード (P.21) で次のように設定します。

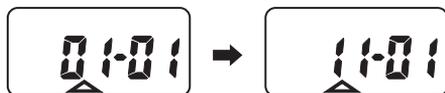
3. 自局 Id 設定 01 ~ 99 の自分の Id 番号を設定します。
4. 自局グループ設定 「-」を設定します。

2. 電源を入れると全点灯表示後、設定モードで決めた自局 Id が表示されます。その後、チャンネルを決める表示になります。



3. UP/DOWN キーで相手の人と同じチャンネルにします。

UP/DOWN キーを押す



チャンネルを合わせる

4. F キーを押し、カーソルを相手番号表示に合わせます。

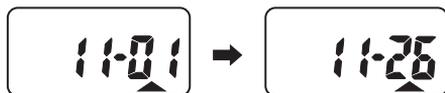
F キーを押す



相手番号変更状態

5. UP/DOWN キーを押し、相手の人の Id 番号に合わせます。

UP/DOWN キーを押す



相手番号を合わせる

6. CALL キーを押して、相手の人を呼び出します。
本機の TX/BUSY ランプが赤色に点灯したらマイクに向かって話します。
7. 通話を終了する時は再度 CALL キーを押します。

アドバイス

- (1) 個別番号を入力するとき、UP/DOWN キーを押し続けると、個別番号は速く変わります。
- (2) Id 番号とは、自分の番号のことで、電話番号のように 1 台 1 台違う番号を登録します。相手番号は、相手の人の Id 番号にそれぞれが合致します。
- (3) 同じ Id 番号が複数ある場合、正常な通話ができなくなる原因となります。
- (4) ビジネス用チャンネルとレジャー用チャンネルの切替えについてはバンド設定 (P.22) をご覧ください。

グループ通話の手順

アドバイス

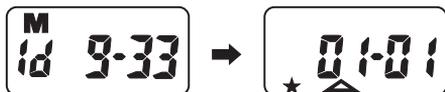
- (1) グループ通話時には表示部の左下に「★」が表示されます。

1. 電源を切ります。「グループ通話」の設定を行います。

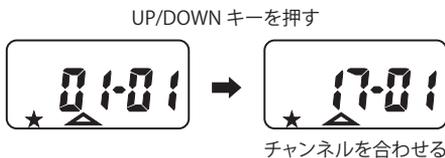
「グループ通話」の設定

設定モード (P.21) で次のように設定します。

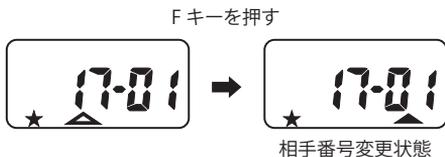
3. 自局 Id 設定 01 ~ 99 の自分の Id 番号を設定します。
 4. 自局グループ設定 1 ~ 9 の自分のグループ番号を設定します。
2. 電源を入れると全点灯表示後、設定モードで決めた自局 Id / グループが表示されます。その後、チャンネルを決める表示になります。



3. UP/DOWN キーで相手の人と同じチャンネルにします。



4. F キーを押し、カーソルを相手番号表示に合わせます。



5. UP/DOWN キーを押し、相手の人の Id 番号に合わせます。



6. CALL キーを押して、相手の人を呼び出します。
本機の TX/BUSY ランプが赤色に点灯したらマイクに向かって話します。
7. 通話を終了する時は再度 CALL キーを押します。

アドバイス

- (1) チャンネル番号は相手の人と一致していないと通話できません。
- (2) ビジネス用チャンネルとレジャー用チャンネルの切換えについてはバンド設定 (P.22) をご覧ください。

便利な通話方法

一斉呼び出し

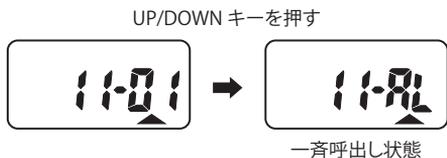
個別通話では、同じチャンネルの人を一斉に呼び出します。また、グループ通話では、同じグループの人を一斉に呼び出します。

このとき、呼ばれた側は最初に CALL キーを押した人が通話できます (応答送信)。他の人は会話を聞くだけとなります。

1. 本機を個別通話 (P.17) またはグループ通話 (P.18) にします。
2. F キーを押し、カーソルを相手番号表示に合わせます。



3. UP/DOWN キーを押し、相手番号を AL にします。



- CALL キーを押して、相手の人を呼び出します。
- 呼ばれた人が応答送信したいとき、CALL キーを押すと通話可能になります。
- 通話を終了するときは CALL キーを押します。

アドバイス

- 応答送信ができるのはチャンネル 01 ~ 18ch で、送信出力が 1mW のときです。応答送信を使用する場合は、あらかじめ送信出力を 1mW に設定 (P.22) してください。
- 応答送信をしている時は、呼び出した人が CALL キーを押すと一斉呼び出しは終了します。呼ばれた人が CALL キーを押すと一端通話を終了し、再び呼び出した側が自動的に一斉呼び出しを行います。

MCA通話

MCA 方式とは、チャンネルが混んでいるときなど空きチャンネルを自動的に探し出し通話を行う方法です。この方式での通話は、チャンネル 01 ~ 18ch のどれかに自動的に設定されます。この方式はかんたん通話、個別通話グループ通話で使えます。

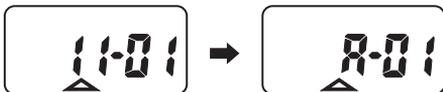
- 本機をかんたん通話 (P.16)、個別通話 (P.17) またはグループ通話 (P.18) の状態にします。
- F キーを押し、カーソルをチャンネル番号に合わせます。

F キーを押す



- UP/DOWN キーを押し、チャンネル番号を A にします。

UP/DOWN キーを押す



MCA 通話状態

- 個別通話またはグループ通話を利用している場合は、相手の Id 番号に合わせます。
- 通話方法は、通常の通話の仕方と同じです。

アドバイス

- チャンネル番号は、相手局も A にしてください。

設定モードについて

本機の設定を変更するモードです。

設定を変更すると、今まで行っていた通信ができなくなることもあります。設定の変更は注意して行ってください。

1. F キーを押しながら電源を入れます。

各項目の内容の選択は UP/DOWN キーで行います。

設定内容は F キーを押すごとにメモリーに記憶され、設定項目が進みます。

▲が点滅している場合は、設定が決定されていません。決定するには、F キーを押します。

項目が最後まで行くと最初の項目に戻ります。

設定が終了したら電源を OFF にします。

電源を OFF から ON にしたとき、設定した内容で動作します。

2. 運用モード設定。

運用モード I と運用モード II を選択します。

運用モード I 対応トランシーバー VLM-850、VLM-300

運用モード II 対応トランシーバー HX824、XH822、XH832D

※同じ MBL88 同士でも運用モードの設定が違えば通話できません。



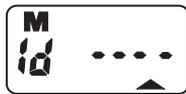
運用モード I



運用モード II

3. 自局 Id 設定 (デフォルトは—)。

運用モード I では表示されません。

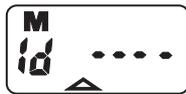


▲が点滅

UP/DOWN キーで自分の Id を入力します。Id 番号は—、01 ~ 99

4. 自局グループ設定 (デフォルトは—)。

運用モード I では表示されません。



▲が点滅



グループ番号 3、ID01 の時

UP/DOWN キーで自分のグループ番号を入力します。グループ番号は—、1 ~ 9、グループ番号が入ると「★」が点灯します。

5. 秘話設定 (デフォルトは秘話 OFF)。
秘話機能を ON/OFF します。HX824、VLM-850 の秘話機能と互換性があります。



秘話 OFF



秘話 ON

6. バンド設定 (デフォルトは業務チャンネル)。
業務バンド 01 ~ 18 チャンネル (421.575 ~ 421.7875MHz/440.025 ~ 440.2375MHz) とレジャーバンド 1 ~ 9 チャンネル (421.8125 ~ 421.9125MHz/440.2625 ~ 440.3625MHz) を切り換えます。2 つのバンドを混在して使用することはできません。
UP/DOWN キーでバンドを切り換えます。



業務用周波数



レジャー用周波数

7. 送信出力切換 (デフォルトは 1mW)。6. のバンド設定がレジャーのときはスキップされます。
UP/DOWN キーで 10mW、1mW を切換えます。



1mW 時 ※送信時間制限なし、使用可能チャンネルは 01 ~ 18 のみ



10mW 時 ※送信時間制限が 3 分、使用可能チャンネルは 01 ~ 18、1 ~ 9
3 分経過すると自動的にいったん通話を終了し、約 2 秒後に再度自動的に通話を開始します。

8. 複信モニター設定 (デフォルトは無し)。
複信モニター設定を有にすると呼局の時、受信音を送信の変調にミックスします。
これにより、別の無線機は呼局と被呼局の両方の声をモニターすることができます。
UP/DOWN キーで複信モニターの有/無しを切り換えます。



複信モニター無し



複信モニター有

9. モニター接続設定 (デフォルトは OFF)。

モニター接続設定を有にすると他の二人が通話している内容を MONI キー押さなくても聞けるようになります。

(グループ番号が異なるトランシーバーからの通話は聞こえません。)

※複信モニターを有に設定するとモニター接続も設定されます。

この場合に、自分の通話を他の人に聞こえるようにして、他の人同士の会話を聞く必要がない時は、モニター接続設定を無にします。

UP/DOWN キーでモニター接続設定の ON/OFF を選択します。



モニター接続設定 OFF



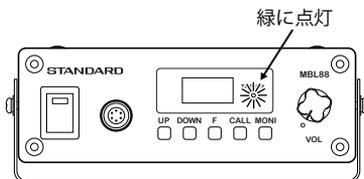
モニター接続設定 ON

応用操作

モニター機能

通話中の相手の電波が弱く音声途切れるとき、または音量を調節するときなどにお使いください。

1. MONI キーを押します。
モニター機能が働きます。

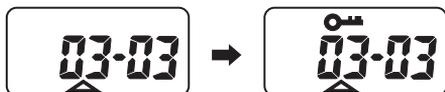


2. モニター機能を解除するには、再度 MONI キーを押します。

キーロック機能

キーロック機能が働くと、コード番号または相手番号が変更できなくなります。ただし、UP/DOWN キーでチャンネルを変更することはできます。

1. F キーを 2 秒以上押します。
キーロック機能が働きます。



キーロック状態

キーロック機能は、電源を切って、再度入れ直しても保持されています。

2. キーロック機能を解除するには、再度 F キーを 2 秒以上押します。

アドバイス

- (1) UP/DOWN キーでチャンネルの変更を無効にすることもできます。
この方法については、お買い上げになった販売店または(株)スタンダードの各営業所にご用命ください。

オールリセットについて

本機の設定を出荷時の状態に戻します。オールリセットを行うと全ての設定を出荷時の状態に戻してしまいますので、再度本機の設定を行うことが必要となる場合があります。したがって、オールリセットはお客様自身が行わず、お買い上げになった販売店または(株)スタンダードの各営業所で行うことをお勧めします。

1. 電源を切ります。
2. CALL キー、MONI キー、DOWN キーを押しながら電源を入れます。
本機の設定が出荷状態に戻ります。
3. 電源を切ります。

その他の機能について

バックライト機能

電源を入れると5秒間バックライトが点灯します。

UP、DOWN、F、MONI キーを押したとき、5秒間バックライトが点灯します。

バックライトは5秒後、自動的に消灯します。

点灯中、キー操作があった時はその時点から5秒後に消灯します。

TX/BUSYランプの表示について

TX/BUSY ランプは、次のように点灯／点滅します。

赤色(点灯)：通話中

緑色(点灯)：受信(待ち受け中に MONI キーを押した場合)

橙色(点灯)：通話中に MONI キーを押した場合

定 格

● 一般仕様

送受信周波数	送信 421.5750MHz ~ 421.9125MHz (12.5kHz ステップ)
	受信 440.0250MHz ~ 440.3625MHz (12.5kHz ステップ)
電波型式	F3E、F2D
通信方式	複信 (フルデュプレックス) 方式
周波数偏差	± 4ppm 以内
キャリアセンス	7dB μ 以下
電源電圧	10.8V ~ 29V (12V/24V) (マイナス接地)
電源ケーブル端末形状	ギボン端子
消費電流	受信待受時 約 180mA 通話時 約 300mA
動作温度範囲	- 10 ~ + 50°C
寸法	幅 132.6mm 高さ 45.6mm 奥行き 106mm (アンテナ、突起物含まず)
質量	約 540g

● 受信部

受信方式	ダブルスーパーヘテロダイン方式
受信感度	- 4dB μ 以下 (@ 12dB SINAD)
スケルチ感度	- 6dB μ 以下
低周波出力	1W 以上 (@ 8 Ω)
副次的に発する電波等の限度	4nW 以下

● 送信部

送信出力	10mW (+20%/ - 50% 以内) (10mW 設定時) 1mW (+20%/ - 50% 以内) (1mW 設定時)
変調方式	可変容量ダイオードによる直接周波数変調方式
最大周波数偏移	± 2.5kHz 以内
占有周波数帯幅	8.5kHz 以内
スプリアス発射又は不要発射の強度	2.5 μ W 以下

■ 本機の規格および外観は改良のため、予告なく変更することがありますのでご了承ください。

保証・アフターサービスについて

1. この商品には、保証書を添付しています。保証書は、「お買い上げ販売店印・保証期間」をご確認のうえ、お受け取りください。
2. 保証書は、よくお読みのうえ大切に保管してください。
3. 保証期間は、お買い上げの日より一年間です。正常なご使用で、この期間内に故障したときは、お買い上げになった販売店または(株)スタンダードの各営業所で保証記載事項に基づき「無料修理」いたします。
4. 保証期間経過後の修理は、修理により機能が維持できる場合、ご要望により有償修理いたします。
5. 補修用部品の詳細・ご贈答・ご転居等によるアフターサービスについての不明点は、お買い上げになった販売店または添付の(株)スタンダードの各営業所にご遠慮なくご相談ください。
6. この商品は、無線設備規則第49条14に基づき、容易に開けられない構造になっています。そのために特殊なビスにより組み立てられています。アフターサービスの際は、必ずお買い上げ販売店または(株)スタンダードの各サービスセンター、営業所にお問い合わせください。

オプション紹介

MF-1C7	マグネット基台付きフレキシブルマイクロホン
CT-2	中継ケーブル
YH-105S ※	工事ヘルメット用ヘッドセット
YH-100 ※	インターコム型ヘッドセット
YH-101A ※	簡易型ヘルメット用ヘッドセット
YH-100F ※	タイピンマイク
MGM-100	マグネット

※これらを使用する場合は中継ケーブル CT-2 が必要です。

株式会社エクセリ
東京都中央区日本橋浜町2-30-1 / 大阪府大阪市中央区久太郎町1-9-5
URL:<https://www.exseli.com/>

株式会社スタンダード

〒153-8645 東京都目黒区中目黒4丁目8番8号

お問い合わせは最寄りの株式会社スタンダード各営業所、サービスセンターで承っております。
付属の全国営業所一覧をご覧ください。

この取扱説明書は、再生紙を使用しています。